

## 「成岩スポーツクラブの新しいページ」

### ～生涯学習の場としての成岩スポーツクラブ～

ならわ

特定非営利活動法人（申請中）ソシオ 成岩 スポーツクラブ

ある雑誌で見かけた、新開谷央氏（北海道教育大学）の文章を引用する。

「……（かつて）子どもたちは、発達段階に応じて様々な遊びをしていた。野球を例にとると、空中にあるボールを捕ったり、打ったりできない子どもたちはゴロベースをやり、少し大きくなると三角ベースを経験し、やがてダイヤモンド型の野球へと進んでいった。この発達段階で、子どもは投げる、打つ、捕る、走るといった運動を自然に獲得することができた。さらに、ゲームをするためにメンバーを集める工夫をしたり、判定でもめて、それを解決する必要もあった。これらの活動を通して人間関係を維持する技術を身につけたのであった。……」

少し長い引用で恐縮だが、この文中での野球と子どもたちとの関係は、そのまま総合型地域スポー

ツクラブづくりと地域住民との関係に置き換えられる。総合型地域スポーツクラブづくりは、「ゴロベース」から始まる社会形成のプロセスのことだと私たちは考えている。

#### 「ゴロベース」から「三角ベース」

成岩スポーツクラブを設立して、今年で7年目を迎えた。「学校と地域が一体となったスポーツ環境をつくり、スポーツを通して地域の子どもたちをみんなで見たいこう」というクラブの理念は、成岩の街に少しずつ広がってきた。現在の会員数は、小中学生900名を含む、最年長83歳までの約2,500名。地区住民の13パーセントになる。クラブの財政規模は約1,500万円（平成13年度決算）。財源は会員からの会費（年間1万円/家族）収入が主で、す

べて自主的な財源である。

クラブは5つの事業を展開する。まず、毎週末子どもたち対象のスポーツスクール事業。成岩中学校は原則土・日曜日は部活動がない。週末の時間をスポーツにあてたい子は、ここで展開している12種目のスポーツから好きなものを選んで活動する。その活動はボランティアがアシストする。次に、スポーツサークル事業。ここでは、毎日夜間の学校開放を活用して大人たちがスポーツを楽しんでいる。この地区の学校の夜間開放は、教育委員会から一括してクラブが預かっている。3つ目は、イベントプロモート事業。夏・冬には2泊で自然の中へ冒険に出かける。三世代交流のイベントも多彩だ。ゲストチームを招いて大会をホスティングすることもある。4つ目は、メディカルケア事業。メディカルチェックとクラブドクターによるスポーツカウンセリングを行う。最後に、広報・研修事業。毎月クラブインフォメーションを頒布したり、クラブボランティアの資質向上の研修会を主催したりする。

事業の大小を以ってクラブを評価するのは意味がない。豪勢なカルチャーセンターを創ることが私たちのねらいではないのだから。

大切なことは、それぞれの事業がクラブのアイデンティティ形成に結びつくかという点である。

現在、成岩スポーツクラブの運営を支えているボランティアは約百名。いろんな考え方がある。なかでも、「学校」と「地域」という、例えて言うなら「花形満(はながたみつる)」と「左門豊作(さもんほうさく)」ほども毛色が異なる部分もあった。新たなアイデンティティは、カオスの向こうにしかない。クラブに関わる者たちは、それぞれの利害や立場を超え、ぶつかりながらも解かり合い、成岩スポーツクラブは何とかいま「三角ベース」の時代を終えようとしている。

### まもなく「プレーボール」

成岩スポーツクラブは、この夏NPOとしての法人申請をした。認証まで4ヶ月。年内には登記まで済ませたいと考えている。

いよいよ、「プレーボール」だ。

任意団体から法人化への過程では、いくつかの点で「クラブ観」にコペルニクスの発想の転換が求められる。「三角ベース」はそれなりに楽しいものだが、しかしクラブが真に社会的存在としてその意義を果たしていくには、やはり人格をもつことは不可欠である。

いま、成岩中学校地内に「成岩地区学校・地域共同利用施設」の建設が進められている。施主は半田市である。施設の内容は、アリーナ、屋上人工芝アリーナ、サブアリーナ、カウンター付カフェテリア、ロッカールーム、ロビー、ジャグジー、会議室などがある。

成岩スポーツクラブは、この施設の運営を半田市から受託契約し、クラブハウスとして運用したいと考えている。それと同時にクラブの事業分野を広げる計画である。

地域は横系、行政の縦割りにはとらわれない。

スポーツだけでなく、子育て支援に関する事業、高齢者のお世話に関する事業、文化・学習支援的な事業。施設を存分に活用し、事業を採算ベースに乗せる。考えるだけでも楽しくなる。その自由を得るために、私たちは責任を分かち、リスクをとる。その上で、行政との協働関係を築いていきたいと考えている。

施設は、平成15年11月末の完成予定である。

### 地域立の生涯学習機関として

世代を超えて、地域の人たちの集まる場が学校にできる。そこは、学校にとれば、総合的な学習など

の格好の場となる。世代交流が日常の場で展開されることになる。こうした場での子どもたちの活動に対し、キャリア教育のひとつとして、エコマネーを発行することなども将来的には考えられる。もっと遙か遠くを見やれば、チャータースクールを運営するクラブの姿もかすかに映る。塵気楼だろうか。

成岩スポーツクラブが成熟した社会的存在になるには、まだまだ擦った揉んだが必要だ。しかし、「ゴロベース」が「三角ベース」になり、そしてここまで来た。たくさんのいさかいと、よろこびを繰り返すなかで、クラブは少なからず知恵と勇気を得た。「学ぶ」ということの意味も少しは知ったような気がする。

総合型地域スポーツクラブは、まずはスポーツを媒介とした地域づくりである。地域とは、残念ながら、もはや始めからそこにあるものではない。夢や思いを同じくする人々によって輪郭が象られていくものだ。だからこそ、総合型地域スポーツクラブ育成の意味が、そこに、ある。

成岩スポーツクラブが、この街になくてはならないものとして、人々の「こころの原っぱ」に満ち

るのも、そう遠い先のことではな  
いと、私たちは信じている。

<http://www.narawa-sportsclub.gr.jp>